

映画と出会い動き始めた人生。

仕事を通して、内側から気付きが生まれる体験に関わりたい。



Profile

1980年生まれ。東京大学文学部美術史学科卒業。演劇活動に励んだ後、2007年に（株）PR TIMES 第一号社員へ。現在は同社取締役・経営管理本部長。あんこが好き。神奈川県川崎市在住。

初めての映画館

中学校まで西ノ島で暮らしていましたが、映画館がないんですよ。松江市の高校に進学した頃に初めて映画館で映画を観るという体験をして、映画ってすごくおもしろいものだと感じました。集った人がたった2時間同じ場所で映画を見て、「明日からはこういう生き方をしよう」と思ったり人生観が変わる体験ができるっていう。映画と出会ってからは、内側から気付きが生まれるような何かに影響を与えられる仕事をしたいと思うようになりました。

大学時代の演劇活動

大学入学後は映画研究会に入っていて映画を撮る側の活動をしていました。その頃、友達がやっていた学生劇団の公演を見に行く機会があって、生でお芝居をしている人たちの空気感に心が動いて、僕も撮る側から演じる側にシフトしました。在学中に芸能事務所所属することができて、モデル活

動をしながら演技の勉強をしたりオーディションを受けたりという生活をしばらく続けていました。親にも、「就職はしないけど25歳まではこういう生き方をさせてください」と手紙を書いてお願いしたことを覚えています。

PR TIMESの第一号社員へ

約束の25歳を迎える年、オーディションもうまくいってなかったのでもう就職することを決めたんです。ご縁があったPR会社に入社したんですけど、最初は仕事に夢中になれなくて役者のオーディションに再チャレンジをしていた時期もありました。入社して2年後にグループ会社で新たに立ち上がったプレスリリースサービスの「PR TIMES」の運営に関わることを誘われて、流れに乗って役者活動は完全に辞めて、（株）PR TIMESの第一号社員になる道を選びました。

会社のミッションが「行動者発の情報が、人の心を揺さぶる時代へ」なのですが、僕は元々映画監督になりたいと思っていただけですけど、「内側から気付きを与える」ということにおいてはPRの仕事も共通するなって気付いて。その人が頭で理解するんじゃなくて、心から「いいな」って共感できる状況をつくりたいっていう思いがあります。今、そういった仕事に関われていることに喜びを感じています。

「夢を語ること」の大切さ

今年、当社の「April Dream」というプロジェクトを担当したんですね。4月1日のエイプリルフルを嘘をつくだ日ではなくて「夢を語る日にしよう」というコンセプトで、新宿駅に302名分の夢と顔写真のポスターを貼り出すっていう。夢を語ることで勇気も出るし、いろいろな感情が湧くと思うんですけど、夢を語る人ってやっぱりそれだけでヒーローだと思ってます。集まった夢はたとえば、「がんで闘病中の父親と、自分の名前の由来になった川を一緒に見に行きたい」という人がいたり、単なる願望ではなく、その人それぞれの人生がかかっていることに感動しました。それから、やりたいことや願ひ事って現実世界に沿って妥協して考えてしまうこともあると思うんですけど、でも本当は夢を持つこと自体は自由にやっていいことじゃないですか。だから、まずは「夢を語る」ということを勇気を出してやってみて、その語ることがスタートっていうふうに考えるのもいいんじゃないかと思っています。今回このインタビューの機会を頂いて、西ノ島にいる皆さんに何か一つでも発見があるといいなと思っていたのですが、「夢を語ることの自由と大切さ」だけでも伝わったらすごく嬉しいです。

Q. ふるさとはどんな存在？

自分にとってのものすごく落ち着いた場所であることは間違いないです。年末年始に久しぶりに帰省しましたが、実家で過ごす時間に癒されました。いつ帰っても温かく迎えてくれる島のおちゃんおばちゃんに感謝です。



小学生時代は日本舞踊のおけいこも。兄（右）と出演した発表会後に記念撮影。



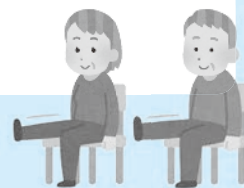
2020年から毎年開催されている「April Dream」。今年の4月には、新宿駅西口広場に302名の夢が語られたポスターが掲示された。（写真提供：（株）PR TIMES）

まめな体操 始めました！



まめな体操とは、健康寿命を延ばすことを目的とした筋力づくり体操です。
住み慣れた地域で、いつまでも自分らしく、いきいきと生活できるように取り組んでいます。

西ノ島町では、大山、別府、大津、浦郷、三度の各地区で、住民さんが中心となってまめな体操が行われています。この4月から赤ノ江地区でもまめな体操が始まりました。その様子をご紹介します！



▲ 隠岐島前病院の作業療法士に教わりながら、皆さん真剣に体操をされています。

1回目

4月20日、1回目スタート！初回から4回目までは、隠岐島前病院の理学療法士、作業療法士等のリハビリ専門職、役場健康福祉課職員、西ノ島町社会福祉協議会の生活支援コーディネーター等も参加して、住民さん主体で出来るように支援していきます。

＼私たちがおじゃましました！／



▲ 1～4回目までは、スタッフが支援します。

5回目以降

4回目終了後は、いよいよ地区の住民さん主体で体操を行っていきます。赤ノ江地区では、毎週水曜日に会場に集まり、毎日14時から11チャンネルで放送されているまめな体操に合わせて体操を行っています。



◀ 会場の赤ノ江公民館は、住民さんが花壇の手入れをしており、とてもきれいです。



▲ 自分たちだけで、できるようになりました！

西ノ島町では、まめな体操に興味のある方、始めてみたい方を支援していきます。下記連絡先までお気軽にお問い合わせください！



地域包括支援センター職員に
お気軽に
声をかけてください！

私たち、まめな体操がんばります!!



赤ノ江地区の皆さんはお互いに声を掛け合いながら、そして自分自身も楽しみながらされていました。これからも皆さん一緒に続けていってもらえればと思います。

お問い合わせ先：西ノ島町役場 健康福祉課 介護保険係（電話：08514 - 6 - 1182）
（地域包括支援センター）